



1992年04月16日

「新型フォルクスワーゲン ゴルフ 販売開始」

株式会社ヤナセ(梁瀬次郎社長)とフォルクスワーゲン アウディ 日本株式会社(溝口靖人社長)は、新型フォルクスワーゲンゴルフを、ヤナセでは来る、4月18日(土)~19日(日)の両日、全国のヤナセネットワークで開催される「'92ヤナセ春・出逢いの日 フェア」から、またフォルクスワーゲン アウディ 日本では同じく両日全国フォルクスワーゲン アウディ 日本正規ディーラーで開催される「ニュー ゴルフ特別発表展示会」から販売を開始する。

新型ゴルフは、昨年9月ドイツ本国で8年振りのフルモデルチェンジ車として発表されたもので、自動車に与えられる権威ある賞『'92欧州カー オブ ザ イヤー』、ドイツ「ビルト・アム・ゾンターク紙(ヨーロッパ最大の発行部数を誇る日曜紙)」主催『ゴールデン ステアリング ホイール賞』を受賞したモデルで、対日輸出仕様車の準備が整ったため日本市場に導入される。

VWゴルフは、1974年にビートルの後継車でフォルクスワーゲンの最量販車種として登場、以来その「コンパクトサイズ、機能性・走行性能・パッケージング」等の特徴により、昨年12月までの累計生産台数は約1,290万台(内初代約660万台、2代目約620万台)。販売台数も1983年以降ヨーロッパにおいてベストセラーとなり、また日本国内においても輸入車の中でも常にトップを争うモデルとなっており、日本国内累計販売台数約23万台(内初代86,000台、2代目144,000台)と、まさに小型車のリーダーとして君臨してきている。

新型ゴルフの開発目標は、将来にわたっての小型車のあるべき姿について考え、その実現に向かって 安全性、環境対策、運転の愉しさ、クオリティの4つについて新しい小型車の基準を示している。

安全性については、新型ゴルフ開発の最重要ポイントとされ、結果として全世界で実施されているすべての安全基準やクラッシュテストの規定を満たしている。また特に厳しいとされる米国の基準も満たし、さらに1993年以降米国で実施される厳格な側面衝突時の安全条件も満たしている。

環境対策については、まさに企業の責任である。製造工程、使用過程、廃車処理時のリサイクルまで含み、新型ゴルフでは設計段階から環境に優しいクルマとなっている。製造過程においてもフロンを全廃、また水溶性塗料の採用により用材の発散を大幅に減少させた。使用過程ではクリーンな排ガス、車外騒音の低減、燃費の低減が図られた。パイロットプラントを含めた一連の研究活動等で蓄積されたりサイクリング技術により、特にプラスチック部材の再生品の使用及びリサイクルが可能となった。さらに、ドイツでは、自動車メーカーで初めて廃車時の無償引取り保証も発表した。